

坂本竜馬の長崎の地をさるく

長島俊一

長崎には坂本竜馬ゆかりの所が多々あります。「坂本竜馬の長崎の地をさるく」はゆかりの地を簡潔に案内するために短歌風にしました。「さるく」とは、長崎弁で「歩く」を意味します。現在長崎市では「さるく観光」を推進しています。皆さんの長崎観光の一助になれば幸いです。

坂本竜馬の長崎ゆかりの地をさるく 長島俊一作歌  
ソレ頃は紅葉の季節日本晴れ 竜馬ゆかりの長崎をさるく  
古長崎は直径半里の狭い街 歩くが便利市電も走る  
新大工電停降りた川べりに 上野彦馬の撮影所跡  
彦馬さんわが国写真のパイオニア 坂本竜馬の写真撮る  
若宮社参る階段中程で 右折し行けば亀山社中  
見晴台立てば長崎一望す 竜馬のブーツは履けど動かず  
風頭階段道に狭い路地 誰となく云う竜馬の道  
新婚のお竜を連れて長崎へ 夫婦で歩いた道かも知れぬ  
風薫る風頭山に来てみれば 港見下ろす竜馬の像  
その眼日本改革思案する 懐に持つは船中八策  
皓台寺後山の墓地に下り行けば 小曾根家墓地に近藤昶次郎  
腹心の近藤早まり自刃する 竜馬自筆の梅花帯屋氏之墓  
油屋町大浦お慶の屋敷跡 離れに屯す維新の志士  
別嬪で大資産家の独り者 稀代の女傑竜馬を支援  
丸山は世にも名高き大遊郭 維新の志士も連夜の登楼  
今残る料亭花月は元引田屋 竜馬遊んで刀傷残す  
銅座には薩摩藩の蔵屋敷 ここを拠点に隠密工作  
倒幕で日本改革志向して 竜馬周旋薩長同盟  
浜町に土佐藩出先の土佐商会 海援隊を此処に創設す  
脱藩の坂本竜馬許されて 任命されたは海援隊長  
県庁は長崎海軍伝習所 勝海舟らオランダに学ぶ  
策士勝やがて竜馬に指南する 長崎初めはお勝のお供  
小曾根家の屋敷の跡は興善町 長崎屈指の大豪商  
海舟と竜馬を支援の太っ腹 明清楽もお竜に教授  
自治会館長州藩の蔵屋敷 前は小倉で巖流坂  
竜馬の亀山社中手掛けたは 長州藩に武器斡旋  
電車で南山手はグラバー邸 隠し部屋には維新の志士  
その主居留地一の武器商人 薩長の武器一手に商う  
最後には長崎駅前本蓮寺 勝海舟の寓居跡とか  
幕臣の勝海舟は艶福家 一緒に暮らすは長崎娘

(編集者)

長崎俊一さんは国土退職後、長崎グリーン研究所を設立、長崎周辺の歴史や史跡など紹介し、「明治維新後の長崎を駆け抜けた快男子 西道仙」「ハウステンボス周辺の今昔」など多くの本も書き上げている。